

京都経済短期大学 経営情報学科

今瀬政司ゼミナール 卒業論文集

2018年1月

■ゼミ担当教員講評 今瀬政司（京都経済短期大学准教授）

＜今瀬ゼミ2回生 卒業論文 要旨&フルペーパー（査読あり）＞

■「西京区の潜在的な地域資源の発掘と発信」

塚田 匠 <添付：ホームページ作成> ※学生論集掲載代表論文/ゼミ研究発表会代表論文

■「地域密着個店のプロモーションを地域活性化に繋げるには」

日下部侑希 <添付：情報誌発行> ※ゼミ研究発表会代表論文

■「ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが与える地域活性化とその影響」

上谷依子

■「日本の観光産業について」

田口汐里

■「富山県利賀村の実態」

清水りか

■「マスコットキャラクターは必要か？」

和田葵、石倉恋、中嶋誠也 <添付：ビデオ動画作成>

■「西京区における地域活性化」

梅野貴斗、大森大暉、佐々木琢成、杉森正基、外山宇海、林龍也

■今瀬政司研究室ホームページ（卒論等掲載）：http://sicnpo.jp/imase-kyoto_econ/

■ゼミテーマ：「自治と協働による地域づくり」（社会的課題を解決して地域を活性化する）

■ゼミ期間：2016年9月～2018年3月

■ゼミ内容：基礎知識の学習を踏まえて、各ゼミ生が独自プロジェクトを企画立案し、学外現場で調査研究や実践活動に取り組むと共に、学外の地域社会、行政機関、企業、NPO など様々な人たちと一緒に地域づくりに取り組む。ゼミを通じて、地域社会に貢献するとともに、実社会で役立つ知識やノウハウを学習する。

京都経済短期大学 経営情報学科

今瀬政司ゼミナール 卒業論文集

2018年1月

ゼミ担当教員講評

京都経済短期大学准教授 今瀬 政司

今瀬ゼミのゼミ生たちは、「自治と協働による地域づくり」というテーマのもと、基礎知識・ノウハウの学習を踏まえて、各ゼミ生が独自プロジェクトを企画立案し、学外現場で調査研究や実践活動を行った。ゼミ期間は、2016年9月～2018年3月の1年半である。京都・大阪・富山等の地域の住民、行政、企業、自治会、NPOなど様々な人たちと交流・協力して、一緒に地域活性化に取り組んだ。ゼミ生たちは、地域社会に貢献するとともに、実社会で役立つ知識やノウハウを学習して、一人一人大きく成長した。

2017年1月19日、京都市西京区役所で全ゼミ生が7つの個人・チームに分かれて企画書を発表。同年7月10日、調査研究や実践活動の成果を中間卒業論文として提出しゼミ内発表。同年11月6日、最終卒業論文の初稿（各14,000文字）を提出しゼミ内発表。初稿提出後も、長い時間をかけて、今瀬からの個別面談サポートを受けながら、粘り強く推敲と再提出を何度も繰り返し行った。ゼミ生たちの卒業論文は日増しに優れたものになっていった。京都経済短期大学における同年12月21日の「ゼミ研究発表会」や2018年1月12日原稿提出の「学生論集」（同年3月発行予定）では代表論文を選定した。各ゼミ生たちの卒業論文はどれも優劣をつけがたいほどに優れたものになってきていたため、選定は苦渋の決断となった。

そして、2018年1月、全ゼミ生（7つの個人・チーム別）の卒業論文フルペーパーからなる「今瀬政司ゼミナール 卒業論文集」（本書）を発行した。塚田匠さん、日下部侑希さん、上谷依子さん、田口汐里さん、清水りかさん、和田葵さん、石倉恋さん、中嶋誠也さん、梅野貴斗さん、大森大暉さん、佐々木琢成さん、杉森正基さん、外山宇海さん、林龍也さんの力作である。

同年1月17日、「今瀬ゼミ西京区役所向け卒業論文報告会」を開催するとともに、西京区長に論文集を提出した。さらに、今瀬研究室ホームページにも論文集を掲載した（http://sicnpo.jp/imase-kyoto_econ/）。全ゼミ生たちの頑張った成果の卒業論文を一人でも多くの人に読んで頂き、今後とも地域活性化の一助になれば幸いである。

<p>京都経済短期大学 今瀬ゼミ 卒業論文集 (ゼミ研究発表会 2017.12.21 卒論要旨集)</p> <p>ゼミテーマ:「自治と協働による地域づくり」 (社会的課題を解決して地域を活性化する)</p> <p>ゼミ内容</p> <p>基礎知識の学習を踏まえて、ゼミ生が独自プロジェクトを企画立案し、学外現場で調査研究や実践活動に取り組みました。学外の地域社会、行政機関、企業、NPOなど様々な人たちと一緒に地域づくりに取り組みました。</p> <p>ゼミを通じて、地域社会に貢献するとともに、実社会で役立つ知識やノウハウを学習しました。</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>目次【今瀬ゼミ生卒業論文】(要旨集編集:石倉恋 和田葵) (卒論フルペーパー、査読あり、各14,000字、2017年11月)</p> <ol style="list-style-type: none"> ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが与える地域活性化とその影響 (上谷依子) 日本の観光産業について (田口汐里) 西京区における地域活性化 (梅野貴斗 大森大暉 佐々木琢成 杉森正基 外山宇海 林龍也) マスコットキャラクターは必要か? (石倉恋 中嶋誠也 和田葵) 西京区の潜在的な地域資源の発掘と発信 (塚田匠) 地域密着個店のプロモーションを地域活性化に繋げるには(日下部侑希) 富山県利賀村の実態 (清水りか) <p style="text-align: right;">2</p>
<p>1. USJが与える地域活性化とその影響</p> <p>①USJが設立された経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際集客都市」を目指す大阪市の中核事業の一環で、USJは此花西部臨海地域の再開発の核とされていた 大阪市のみならず、関西経済圏全域に非常に大きな経済効果を及ぼすことが予想されていた USJを核に再開発を行うことで大阪湾ベイエリア開発を先導する存在 <p style="text-align: right;">3</p>	<p>②一時落ち込んだ集客</p> <ul style="list-style-type: none"> 集客低迷による不祥事の報道 パークの不明確なテーマ性 ファミリー層の取りこぼし <p>③復活のはじまり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「世界最高のエンターテイメントを集めたセレクトショップ」へ 子供も楽しめる複合ファミリーエリアの設置 既存のアトラクションを改造・改築するリノベーション戦略 <p style="text-align: right;">4</p>
<p>2. 日本の観光産業について</p> <p>①日本の観光業界の現状と推移</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の観光業界は右肩上がりが続いているが、今後どのように発展を遂げていくのだろうか 少子高齢化社会の今、国内旅行者を確保するためには、バリアフリー化やペット同伴可能な施設の増設などが期待される <p>②訪日外国人旅行者の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、円安やビザ要件の緩和などで、訪日観光客が著しく増加している 訪日観光客が増え、外国人が円で日本のモノを買ったりサービスを受けるとGDPの増加に繋がるというメリットがあるが、一方で治安の悪化などが懸念される <p style="text-align: right;">5</p>	<p>③西京区を中心に見る京都の観光の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都を訪れる観光客は年々増加している 西京区は有名な観光地が少ないが、マイナーな観光地をはじめとした観光スポットの紹介 <p>④観光産業の今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行会社窓口での販売などではなく、インターネットやQRコードなどを使用して、受付や航空券の発行するなど簡易化が求められる <p style="text-align: right;">6</p>
<p>3. 西京区における地域活性化</p> <p>①榎原祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> 榎原祭りについて 40年前から始まっている榎原祭り。 榎原祭りの主な目的 ⇒地域の活性化。地域のコミュニケーションの場。 担当自治会 ⇒体育委員会・女性会・少年補導・体育振興会・社会福祉協議会・民政委員 神輿巡行・・・25年前から開始 地域の子どもたちと大人、学生で協力。 問題・・・地域住民の自治会の脱退による参加人数の減少、少子高齢化。 課題・・・学生と地域の連携 <p style="text-align: right;">7</p>	<p>②榎原学区統合防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 榎原学区統合防災訓練について 40年前から始まっている榎原学区防災訓練 榎原学区統合防災訓練の主な目的 ⇒この防災訓練をきっかけに隣近所の支えあいを見直し、なおかつ1人1人が、いつ災害が起きても対処できるように準備をしてもらいたい。 当日の体験 ⇒避難誘導・救助訓練 課題⇒地域の役員が1年で変わる。 ・様々なニーズに答える必要がある。 ・避難するときのペットの問題 ・若い世代が全くない。 <p style="text-align: right;">8</p>

4. マスコットキャラクターは必要か？

「たけによん」について

「たけによん」とは西京区のマスコットキャラクターで、京都のなかでは知名度があり、人気である。

・2013年に西京区にゆかりのある方を対象に募集したマスコットキャラクター総選挙で最優秀賞に選ばれて誕生したマスコットキャラクターである。西京区の広報部長として活動しており、西京区の魅力について情報を発信している。

京都経済短期大学のオープンキャンパスにきている「たけによん」に密着してみた。

動画あり

9

マスコットキャラクターの地域に与える影響

① 広告としての役割

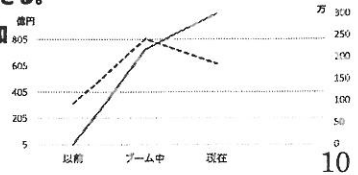
イベントや地域活動などマスコットキャラクターの一番の役割は広告だ。一目見るだけで、公共団体や企業が何を訴えたいかが瞬時にわかる。

② 記憶力の定着

魅力的なマスコットキャラクターはイベントのイメージそのものを良くしてくれて、キャラクターを気に留めてもらえば、イベントの開催についても覚えてもらうことができる。

③ 知名度上昇、観光客の増加

太線 くまモンによる売上高
点線 「ひこにゃん」による彦根城の観光客数



万円
800
700
600
500
400
300
200
100
0

5. 西京区の潜在的な地域資源の発掘と発信

西京区の調査結果

① 一般の西京区のイメージ

「嵐山」で有名なことや、少子高齢化に悩まされていることでイメージされている

② 実際の西京区(地域を簡潔にまとめた)

大原野

- ・「三鈷寺」への山の頂点は京都を一望できる
- ・「大原野神社」をはじめ、歴史や風景を楽しめる場所がある

川岡

- ・「赤手拭さん」のような知られざるシンボルがここにある
- ・「天皇の杜古墳」など、京都市の史跡がある

11

西京区の催し物

- ・「ふらっと西京」で話し合い、楽しみ合いができる
- ・「西京区民ふれあいまつり」で、西京区民の笑顔を作る場がある

③ 現在の西京区の対策

町を美化活動などで、景観を良くし、自然豊かさや住みやすさを推進させること

④ 筆者の考え

西京区について知られていない人に向けて、興味を持ってもらえるよう、発信することが大切だと考えた。

以下が筆者作成の独自のホームページ

「ねえ、”西京区”ってどこだか知ってる？」(塚田匠)

<https://arashiyama-kyoto.jimdo.com/>

12

6. 地域密着型個店のプロモーションを地域活性化に繋げるには

日下部侑希

Q. CMでプロモーションを行うチェーン店と違い地域に密着した飲食店はどのようにしてプロモーション活動を行うのか？

A. 調査の結果、SNSを利用したリアルタイムでの情報提供や地域のイベントに参加し、プロモーション活動を行っていた

13

地域密着型個店は地域との密接な関係にあり地域イベントに参加しPRを行うことによって相対的な来店効果を生み出すことができる

地域イベントに来場した人にお店を認知させることができる



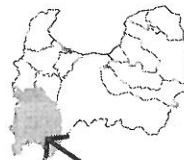
お店のネームバリューが高くなるとその効果でイベント参加者が増える

地域のイベントとお店のプロモーションを同時に行うことによって地域活性化の第一歩となる

14

7. 富山県利賀村の実態

今瀬ゼミ C3b10073 清水りか



研究対象

○富山県南砺市利賀村を拠点とする演劇活動団体「SCOT」

○「SCOT」とは

・・・利賀村のこの広範囲の土地を利用し、かつグローバル的な演劇活動を行った背景に劇団の姿「scot」がある。土地内には、演劇活動用の施設が、今まで活用されていなかった、合掌造りが再活用、再利用されている。

15

浮き彫りになった課題

○利賀村住民の減少

富山県南砺市利賀村の住民が年々減少している。

日本の人口は、「国立社会保障・人口問題研究所」の推移に寄れば、2014年現在の12,722万人から2040年には8,674万人まで減少するとされている。

「SCOT」により演劇が盛り上がるうとも、現地の人間が減少すると、民宿などの人手不足にもつながる。

16